

# 貸借対照表

2022年2月28日現在

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
<b>流動資産</b>	<b>22,901,178</b>	<b>流動負債</b>	<b>16,016,814</b>
現金・預金	680,032	支払手形	649,056
受取手形	554,881	電子記録債務	5,547,847
電子記録債権	3,981,098	買掛金	7,080,495
売掛金	12,142,069	短期借入金	1,411,250
商品	4,949,612	1年以内返済長期借入金	84,000
前払費用	36,422	リース債務	12,632
短期貸付金	178,328	未払金	254,954
未収入金	329,000	未払費用	92,709
その他の	49,730	未払法人税等	527,124
<b>固定資産</b>	<b>11,151,844</b>	前受金	31,457
<b>有形固定資産</b>	<b>4,810,083</b>	預り金	60,811
建物	1,871,774	賞与引当金	255,476
機械装置	104,244	設備等支払手形	8,970
器具備品	160,554	その他の	27
土地	2,377,057	<b>固定負債</b>	<b>919,829</b>
リース資産	54,858	長期借入金	680,000
建設仮勘定	241,594	リース債務	47,711
<b>無形固定資産</b>	<b>137,349</b>	繰延税金負債	42,467
借地権	7,640	役員退職慰労引当金	149,350
商標権	10,039	その他の	300
ソフトウェア	118,423	<b>負債合計</b>	<b>16,936,643</b>
その他の	1,246	<b>純資産の部</b>	
<b>投資その他の資産</b>	<b>6,204,411</b>	<b>株主資本</b>	<b>17,062,968</b>
投資有価証券	395,132	資本金	450,687
関係会社株式	2,787,958	資本剰余金	84,615
出資金	5,570	資本準備金	84,615
長期貸付金	1,756,511	<b>利益剰余金</b>	<b>16,527,665</b>
長期前払費用	170,990	利益準備金	59,196
前払年金費用	798,632	その他利益剰余金	16,468,468
保証金	58,386	固定資産圧縮積立金	182,934
保険積立金	482,734	別途積立金	14,500,000
会員権	63,648	繰越利益剰余金	1,785,534
貸倒引当金	△ 315,153	(うち当期純利益)	(1,186,610)
		<b>評価・換算差額等</b>	<b>53,410</b>
		その他有価証券評価差額金	53,410
		<b>純資産合計</b>	<b>17,116,378</b>
<b>資産合計</b>	<b>34,053,022</b>	<b>負債および純資産合計</b>	<b>34,053,022</b>

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 個別注記表

## I 重要な会計方針に係る事項

### 1. 資産の評価基準および評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準および評価方法

関係会社株式…移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの…移動平均法に基づく原価法

#### (2) デリバティブの評価基準および評価方法

デリバティブ…時価法

#### (3) 棚卸資産の評価基準および評価方法

商品…移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産…定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）…定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては利用可能期間（5年）に基づく定額法

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産…リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

売上債権等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込み額を計上しております。

なお、過去3年において貸倒実績がほぼゼロであるため、重要性の原則より一般債権については貸倒引当金を計上していません。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち当期の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金（前払年金費用）

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末日において発生していると認められる確定給付企業年金制度に係る退職給付債務および年金資産の見込み額に基づき計上しております。

なお、当事業年度末日においては、年金資産見込み額が退職給付債務見込み額を超過しておりますので、超過額を前払年金費用として計上しております。

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（5年）により翌期から均等償却しております。

(追加情報)

上記とは別に以下の制度に加入しております。

① 確定拠出年金制度

この年金拠出額は支払時に退職給付費用として処理しております。

退職給付制度における確定給付企業年金制度および確定拠出年金制度の適用割合はおおむね 70 : 30 であります。

② 総合型確定給付企業年金基金

この年金拠出額は支払時に退職給付費用として処理しております。

当該企業年金基金の積立状況等は下記のとおりであります。

記

(イ) 当該企業年金基金の積立状況（2021年3月31日現在）

年金資産の額	129,661,112 千円
年金財政計算上の数理債務の額	132,336,571 千円
差引額	△2,675,458 千円

(ロ) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合 1.464%  
(2021年3月末時点)

(ハ) 補足説明に関する事項

・(イ)の差引額 (a + b - c)	△2,675,458 千円
a. 別途積立金	10,143,806 千円
b. 繰越不足金	0 千円
c. 未償却過去勤務債務残高	12,819,265 千円
・過去勤務債務の償却方法	元利均等償却
・過去勤務債務の残存償却年数	第1加算 8年6ヵ月 第2加算 0年0ヵ月

③ ベネフィット・ワン企業年金基金（複数事業主制度）

当該企業年金基金は確定給付制度であります。自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することが出来ないため、確定拠出年金制度と同様に年金拠出額を支払時に退職給付費用として処理しております。

当該企業年金基金の積立状況等は下記のとおりであります。

記

(イ)複数事業主制度の積立状況（2021年6月30日現在）

年金資産の額	62,838,298 千円
年金財政計算上の数理債務の額	61,220,345 千円
差引額	1,617,953 千円

(ロ)補足説明に関する事項

・(イ)の差引額 (a+b)	1,617,953 千円
a.別途積立金	1,189,775 千円
b.当年度剰余金	428,178 千円

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金の内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の処理は、税抜方式によっております。

以 上